平成２７年度学校関係者評価委員会　議事録

【日　時】平成２７年５月３１日（日）１６：０５～１７：００
【会　場】こころ医療福祉専門学校　３階　会議室
【委　員】出席：志岐浩二、西原美由子（松尾峯子代理）、平田篤司、清川慎介、井手浩二、
諸岡辰巳、石原義大、中嶋孝行、越本千加、池田聡美
欠席：大木田治夫、有村俊男、松尾峯子、宗高志、池上功、久貝博、
沖永さとみ
【事務局】出席：廣瀬典治、柳樂聡治郎、山口三津城、藤村幸一、松本真一郎、野口大樹、
百田潤、江口亜澄美、坂口麻衣子、嶋津大地、濱中博之、松尾和香、
舘川大輔、上原直樹、菊地貴子、中村裕也、髙島直哉、久保義哲、
清木毅
欠席：松川征平

（敬称略）

１．長崎校：学校自己評価の説明と評価（副校長　山口三津城）

専門学校では、平成１９年度から学校教育法１３３条、第１３４条第２項において準用する第４２条及び同法施行規則第１８９条、第１９０条において準用する６６条、６８条により、学校自己評価の実施・公表を実施することが義務付けられた。本校でも、平成１９年度から学校自己評価委員会を立ち上げ、平成２１年度より私立専門学校等評価研究機構の第三者評価事業が作成した自己点検ブックに基づいた自己点検を行うことで、教育水準の向上に努めている。資料は事前にお送りしているので、自己評価のポイントについて説明させていただきたい。

平成２６年度の評価方法は、各項目を副校長、総務部長、教育部長で担当し、必要に応じて教職員からのヒアリングを行って評価をした。その後、校長を含めて評価会を行い、全体の評価を行った。

平成２６年度の重点目標は「１．合格率・就職率ともに１００％」と、「２．企業や社会との連携・社会貢献」の２つである。合格率は、１００％には達しなかったが、各学科、全国平均を上回っている。就職率は全学科１００％である。

企業や社会との連携については、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を実施し、従来よりも組織的な連携ができたと思う。地域社会との連携においても、従来より地域活動への参加などによりかかわりを続けている。

３ページからの各項目の評価については、評価者側から課題と感じる部分を示し、皆様の意見をいただきたいと思う。

６ページの退学者の低減について、評価は２としている。退学者は過去３年減少しているが、年度初めを１００とした場合、退学者の占める割合は、６．５％であり、多いのではないかと考えている。今後、評価を３、４にしていくため、すなわち退学者を出さないためには、成績不良者への指導力の向上が必要である。

学生に対しては、定期的な面談、個別指導を行い、退学に結びつくような学生の早期発見、早期対応を改善策として挙げている。

卒後教育のキャリア形成に関して、卒業生へのフォローアップ体制、卒業生とのかかわりが不十分ということで、評価を２にしている。卒後教育の実施など、工夫はしているが、組織的な対応ができているとは言い難い。今後は卒業生の職場訪問、広報課との情報共有を図りたい。

一方で、頑張っていると評価できる項目は１３ページの国際交流である。岩永学園グループとして、「こころ美健福祉専門学校」では、平成２５年１０月から日本語科を設置し、４月現在、ヒューマンケア科に３５名、日本語科に６２名の留学生が在籍している。今年度より、ヒューマンケア科の授業の一部を本校の教員が対応しており、本校との関係を深めるよう努めている。

今後、外国人が介護福祉士を取得した場合に在留ビザが交付可能になることを踏まえ、日本語科から本校の介護福祉科への入学、資格取得、介護現場への就労という流れを作るための基礎はあると考えている。

佐世保校でも本年１０月より日本語科を設置して留学生の受け入れを行い、島原でも日本語科の設置を行う予定である。

その他、韓国の仁徳大学、イギリスのボーンビル大学、台湾の慈明高級中学などとの包括協定を結び、グループ全体でのかかわりを行っている。国際交流に関しては、他の専門学校より先んじた対応を行っていると考えている。

２．意見交換

（平田）退学率について、年々下がっているのは良いことであると思う。一つ一つ、退学の原因となっていることを潰していくことで、改善できるのではないかと思う。すでに実施しているかもしれないが、カウンセリングを行うのもよいのではないかと思う。卒後の学校とのかかわりは、同窓会などを設立、運営することで情報交換にもつながり、良いのではないか。

（山口）カウンセリングは、スクールカウンセラー（臨床心理士）が来校して行っている。

（松本）卒後教育に関しては、理学療法科にはすでに同門会（同窓会組織）があり、他学科でも同窓会設立の取り組みを行っている。

（石原）学生には人間力、コミュニケーション力を教えていると思うが、より実践的な教育をしてもらいたい。挨拶の仕方など、家や学校でできていなければ、職場

でもできない。仕事をしてお金をもらっているのではなく、患者がいてお金をもらっているということなどを、きちんと教育してから社会に送り出してほしい。

（山口）挨拶の指導は日常的に意識して行っている。学生向けの研修会のようなものも必要なのではないかと感じている。

（越本）福岡の学校で、挨拶の指導が徹底されている学校がある。その学校は募集開始後、１～２週間で定員に達する。指導が浸透していると感じる。本校でも、教員が一生懸命指導をしているのは分かるが、現在の学生には、想いが伝わりにくいと思う。人に接することが多い仕事なので、「この人に任せたい」と思ってもらえるような人材の育成をしてほしい。

（校長）全職員で教育しているが、組織的な指導という形になっていないのではないかと思う。挨拶をされたら返すという状況から、生徒から挨拶をするようになってきている。今後は１年次の合宿での指導等、組織的な指導というのを意識したい。

３．佐世保校：学校自己評価の説明と評価（校長　柳樂聡治郎）

佐世保校の目指す目標も長崎校と同様である。自己評価報告書の作成に関しては、校長の柳樂と課長の百田で素案作成後、学科長会議での承認を得ている。より向上させるためには、２のものを３に、３のものを４に上げなければならない。２のものを早急に改善することを重視している。

資料２０ページの退学率の評価は２をつけた。以前は、担任・学科長との面談を行っていたが、現在は担任・学科長はもちろん職員との面談も行っている。また、朝会にて前日の欠席者を報告させており、３日続いた場合は本人へ事情の聞き取りを行っている。

生活環境への支援に関しては、保護者との電話連絡および、面談を行っている。卒業生への支援に関しては、現在卒業生がいないので、「回答しない」という選択もあったが、現状で卒業生に対する取り組みが十分ではないため２にしている。どのような取り組みが良いか悩んでいるため、ご意見・ご提案があれば教えていただきたい。

４．意見交換

（井手）しっかり取り組まれていると感心している。特に異議はない。

（諸岡）退学者数は思ったより少ないので、頑張っていらっしゃるのではないか。

（柳樂）在校生数が少ないというのもある。そのため、ひとりひとりに目が行き届いており、朝会での欠席者確認も役立っていると感じている。

（平田）どの学校でも、卒業生は学校の看板を背負って頑張っている。長崎校も佐世保校も卒業生にはプライドを持って頑張ってもらいたい。

５．その他

（藤村）次回の教育課程編成委員会については年度内にもう一度行う。予定としては、１１月２１日（土）を予定しているので、よろしくお願いする。

（廣瀬）去年に引き続き、貴重なご意見をいただいた。去年に増して詳細にご指摘いただいた。我々にとっては、学校にいると気づかない部分をご指摘いただいたと思う。来年良いご報告ができるように取り組んでまいりたい。

以上で、本委員会を閉会する。